

スケルトン新古典ラジオ(那須科学歴史館 製作 2019年)

真空管を含め現代の部品と技術により、1920年代の高性能 古典ラジオと同じ回路構成(多段高周波増幅・ストレート方式)のラジオを製作しました。

1920年代、3本の真空管UV-201Aで3段高周波増幅を行った場合、高周波増幅度は100～200位ですが、現代の真空管を用いると2本の真空管6CB6で2段高周波増幅の増幅度は400位になり、高感度なラジオを作ることができます。

